

論 文 要 旨

| | | | |
|--|----------|-----|-------|
| 学籍番号 | 81333071 | 氏 名 | 石樽 宣之 |
| 論文題目： ストック型都市形成の為のコンバージョンの提案 | | | |
| (内容の要旨) フローの時代からストックの時代に向けて、ストック型都市（街の価値を高め文化的資産として次世代に受け継いでいく事で良質な建築ストックを長く且つ有効に使い続ける事ができる街）を形成していく事が重要であるが、わが国ではそれに必要な建築ストックの長期利用及び有効利用がなされていない。本研究は、ストック型都市を形成する為になが国の都心部において良質な建築ストックを長く且つ有効に使い続ける事ができる手法を提案する事を目的とする。コンバージョンが進まない要因を分析し、ストック型都市形成の為に有効な2つのコンバージョン手法を評価・検証し提案する事を目標とする。コンバージョンが進まない問題構造図から法律、事業性、建物寿命、建物仕様、街の魅力の5点が挙げられる。コンバージョンが進んでいる欧米との違いは、①規制緩和、②税制優遇、③再生利用の文化の定着、④建物固有の制約を解決、⑤歴史文化的価値を生かした調和した街並み、⑥専門家の存在 である。都心部において重要性が高い④と⑤をもとに以下の2つの仮説を設定の上評価・検証した2つの手法を提案する。 1. 建物固有の制約を解決する為に単独建物よりも複数建物単位でコンバージョンを行う「マルチプルコンバージョン」 単独建物によるコンバージョンと複数建物単位でのコンバージョンの比較検討と想定敷地におけるシミュレーション及びインタビューによりストック型都市形成の効果が高い事を検証した。有識者へのインタビューにより、耐震等の異なる付加価値の盛り込み、既存建築と新築も一緒に考えたコンバージョン後のエリアマネジメントの計画等の知見を取り入れる提案とした。 2. 歴史文化的価値を生かした調和した街並みとする為に建築と都市との「関係性」をコンバージョンする「インターフェースコンバージョン」 従来のコンバージョンとインターフェースコンバージョンをピュアコンセプトセレクションを用いて比較してストック型都市形成の効果が高い事を確認した。有識者へのインタビューにより、誰にも分かる都市の将来像を可視化するシステムの必要性、街の変化に対応できる柔軟性、システム自体のサステナビリティの必要性等の知見を取り入れる提案とした。 | | | |
| キーワード（5語） コンバージョン、ストック型都市、都心部、複数建築物、インターフェース | | | |